

特集!!

「平成29年度人権4コマ漫画・人権4コマ漫画シナリオ受賞作品」



熊本県人権啓発キャラクター
「コッコロ」

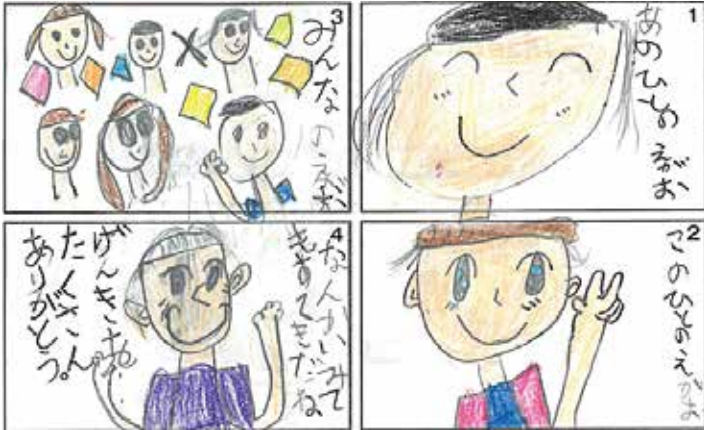
平成28年度までの事業「人権メッセージ『あなたのひとこと』」に代わり、今年度新たに始めた「人権4コマ漫画・人権4コマ漫画シナリオ」募集事業には、432作品のご応募をいただきました。ありがとうございました。

自身の人権意識を見つめ直して考えたこと、普段生活する中で感じたことなど、人権に関する想いを絵や文に込めた素敵な作品が数多く寄せられました。

今年も募集しますので、昨年応募された方、応募されなかった方ともに、お待ちしております♪

漫画部門・優秀作品

「えがおはすてき」 永石 紗和さん（水上村立岩野小学校 1年）



作者のコメント

色々なことをかかえて悲しんでいる方、苦しんでいる方に少しでも多くの「笑顔」がうまれてほしいと思い、また、一瞬でも「元気」を与えられたら自分もうれしいな～と思い、この作品を考えました。

桜田幸子さんから

1コマ目から画面をはみ出す愛らしい顔が素晴らしいと思いました。全ては“笑顔”から始まるのだと再認識させられます。1年生らしい素直な作風に大変好感が持て、様々な国の人々を描き分けているところにも工夫を感じました。

「その一言で」 城野 和真さん（長洲町立六栄小学校 5年）



作者のコメント

いじめられた人にすこしでもよりそい、人をきずつける言葉より人を救う言葉で、いじめられている人をはげましてほしいという思いでこの作品を作りました。

桜田幸子さんから

冒頭から“バーン”と登場する構成は迫力があますね。効果音で目を引きました。少ない台詞で“一言をかける”重要さが簡潔に表現されています。

「大切な名前」 前田 愛舞さん（長洲町立六栄小学校 6年）



作者のコメント

一人一人名前があるのに、「お前」とか「ねえねえ」とか言われると傷つくからです。大切な名前がちゃんとあるので、名前ですべてしゃべりかけてほしい！という思いをこの作品に込めました。

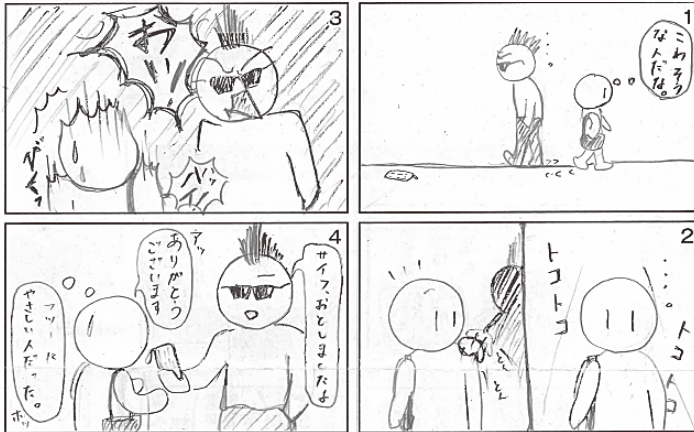
桜田幸子さんから

確かに日本人は名前を呼びませんよね。私も弟がいるため、常に「お姉ちゃん」と呼ばれていて、名前ですべてしゃべりかけてほしいという思いをこの作品に込めました。夫婦もお互いに「お父さん」「お母さん」ではなく、名前ですべてしゃべりかけてほしいという思いをこの作品に込めました。

人権4コマ漫画シナリオ受賞作品紹介



「見た目で判断しないで」 井添 智子さん (天草市立五和中学校 3年)



作者のコメント

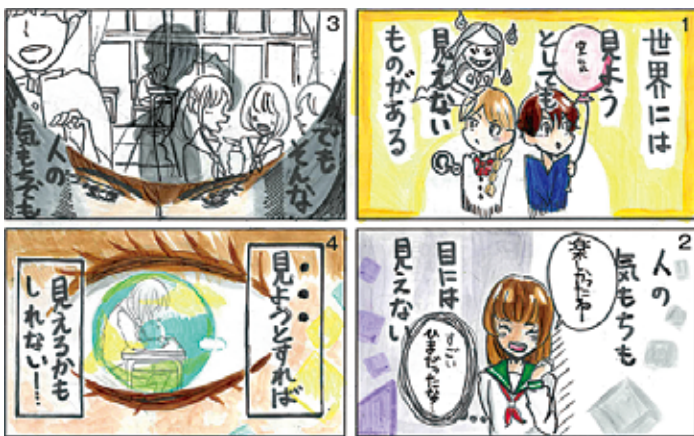
人を見ただ目で判断すると相手への偏見となります。話してみると相手のことがよく分かるかもしれません。また、ネット社会の中、顔が見えない時でも相手のことをしっかり判断できる力を持ってほしい思いを込めています。

桜田幸子さんから

画力があってとても読みやすく、1コマ目は引きのアングルになっていて猫背の姿勢だけで怖そうな雰囲気を出しているのが上手いです。通常は吹き出しを先に読んでからキャラクターに目が行くため、左右反転させればもっと良かったなと思いました。次回はぜひ、彩色にも挑戦して下さい。



「見ようとする力」 ガチャ子さん (天草市立本渡東中学校 3年)



作者のコメント

自分に関係のない事は見て見ぬふりをしたり、自分の事だけを考え、周りを見ようとしなない人が多いと思います。自分もその中の一人にならぬよう、友人や家族の変化に気づき、人を大切にできるようになりたいと思い描きました。

桜田幸子さんから

描き慣れた感じと丁寧な着色で目立つ作品でした。何度も読み返していくうちに、じわじわとメッセージが伝わってきます。誰もが思い当たる“見て見ぬふり”にはっとさせられる内容でした。



「何がフツー!？」 松崎 美紀さん



作者のコメント

色々な家族の形があってよい。自分と違うからと非難していい理由はない。もっと人に優しく、違いを認め合える社会になって欲しいと思って描かせていただきました。

桜田幸子さんから

大変シンプルな画面でとても読みやすく、4コマ漫画ならではの役割を実にスムーズに生かしています。LGBTを考える・気づく・知るきっかけになる作品の一つだと思いました。



漫画部門・入選

「みんなちがってみんないい」 岩下琥珀さん (菊池市立七城小学校 2年)



作者のコメント
 体が小さかったり、走るのがはやかったり、絵をかくのが上手だったり、いろんな人がいます。でも、それぞれにいいところがたくさんあります。みんなちがって、みんないい。ちがうから楽しいんだと思います。

桜田幸子さんから
 2年生らしく、のびのびと描かれていて素直な作風がすぐに目にとまりました。低学年の作品ほど心を打つのはなぜでしょうか。この気持ちをずっと持ち続けていてほしいと思います。



「やさしい言葉をかけられる人になりたい。」 福田優羽莉さん (長洲町立六栄小学校 4年)



作者のコメント
 すて犬やすてねこがいたら、みんな声をかけながら自然によっていきます。そんな風にもしも友達が一人で遊んでいた、こまっていたら、自然に声をかけてあげられる人になりたいと思い、かきました。

桜田幸子さんから
 たしかに、動物には声を掛けられても人には掛けにくいという気持ちは誰にでもあるのではないのでしょうか。犬や猫を優しく撫でるように人の心も気軽に撫でられるようにしたいものです。



「みんな仲間」 澁谷結依さん (錦町立木上小学校 5年)

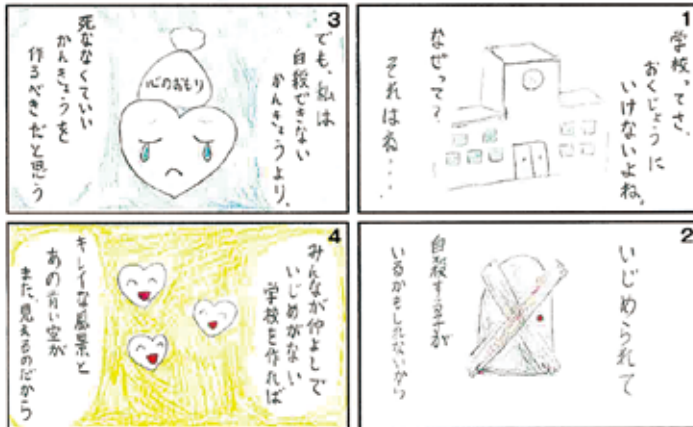


作者のコメント
 私は、みんな同じなのに差別するのがおかしいと思います。だけど、差別する人が多いので、差別をなくしてほしいから「みんな仲間」という題にしました。そして、差別はどれだけきついのか、つらいのか分かってほしいです。

桜田幸子さんから
 クレヨンや色鉛筆を登場させた作品が多い中、魅力のある可愛らしいキャラで選びました。人気のある色とそうでない色の例えば、人と置き換えて考えるには便利な題材です。他にも色々な種類のある道具を使った作品がありました。



「あの青空をもう一度」 木下可奈子さん（八代市立千丁小学校 6年）



作者のコメント

自殺させない環境づくりでは、いじめの根本的解決にはならない。私は、一人ひとりが相手を思いやり、皆が悲しい思いをしない環境づくりこそが大切だと考える。死への扉を感動への扉に変えていける自分でいたい。

桜田幸子さんから

最後まで審査員の議論が白熱した作品でした。ストレートでどきりとさせられる表現ですが、誰もがオブラートに包んで触れようとしないうちに深くばさりと斬り込んでいる衝撃作です。6年生ならではの視点が胸に響きました。



「私と雰囲気」 村田早紀さん（八代市立千丁中学校 2年）



作者のコメント

自分が教室に入って「おはよう」とあいさつをしたときに、「おはよう」と返してくれる人がいるクラスとそうでないクラスは、自分にとってクラスの人にとってもどちらの方が行・生きやすいのか、読者に問いかけた作品です。

桜田幸子さんから

とてもシュールな画面で、あえて変化を強調しないところに日常のリアル感を訴えてくるセンスを感じます。色々なタイプの4コマ漫画を待っていた審査員側の期待を裏切らない作品でした。



「ちょっとの勇気で何かが変わる」 金子真由さん（天草市立五和中学校 2年）



作者のコメント

私は、いじめをとめることのできる人が増えたらいいなと思い描きました。少しの勇気ある行動でいじめられている子の未来を変えられると思います。世の中からいじめが少しでも減ってほしいという願いを込めました。

桜田幸子さんから

中学生らしい画風で臨場感がありました。背景もよく工夫してその場の雰囲気や登場人物の気持ちの動きを出していると思います。コッコロの魔法がなくても勇気を持てるようになりましたね。

「年よりだから」ときめつけないで 藤原朱美さん



作者のコメント

私の父(90才)がモデルです。戦前～戦後生き抜いた父は、何事にも前向きで明るく、愚痴を言いません。年齢や体力面において、できないことは周りでフォローしながら、父らしく(「みんな自分らしく」という意味です) 過ごしてほしいと思って作品にしました。

桜田幸子さんから

高齢者をテーマにした作品が少ない中、ご親族の過ごし方を紹介して下さったことに意義を感じます。実話を知ること社会の皆が応援できる方法を見つけやすくなるのではと思いました。



「ゾウくんの運動会の練習」 圓山道子さん



作者のコメント

人は誰しもその人なりの存在価値を持っているはずですが、自分のできることが苦手な人に対して、その人の存在価値を否定する前に、個性が異なるだけだと気付いたら、皆がもっとお互いに優しくなれると思ひ、制作しました。

桜田幸子さんから

とても可愛くて誰もが好きになるキャラクターの魅力を持った絵だと思いました。一色ですが綺麗に仕上がっていて見落りしません。作者が込めた想いが伝わってくるように感じました。



シナリオ部門・優秀作品

「多文化共生と異文化理解とはなんだろう。」 上田コヲさん (嘉島町立嘉島中学校 3年)



作者のコメント

公民の授業で異文化理解と多文化社会について学びました。また、今もなお差別と偏見がなくなる事、通りすがりで聞いたヘイトスピーチで悲しかったことが伝わればと思いました。

桜田幸子さんから

ニュース等で耳にすることも多い「ヘイトスピーチ」や特定の国に対する「偏見」は、一体どこから生まれるのか、自分以外の県や国の人を理解することで多様な文化を受け入れる事が出来るのでは、と考えた作者の熱い想いが長い文章から伝わって来ました。4コマで表現するのは難しいですが、皆で考えるきっかけの一つになれば良いなと思います。

「手をさしのべよう」 中西翔太さん、梶原蓮さん、浦川帆佳さん、
開田康太さん、市山真緒さん、今村颯さん
(熊本県立荒尾支援学校高等部 2年 一般学級 Cグループ)



作者のコメント

仲間はずれをしても誰もいい気持ちにはなりません。一人で困っている人がいたら、声をかけたり、手をさしのべたりして、助けることができる関係が大切だと思います。そんな関係を作りたいと思い、作品を作りました。

桜田幸子さんから

実際の画像で作られた4コマは大変臨場感がありました。仲間外れにされて悲しい気持ちでいる友達に声を掛けよう！手を差し出そう！というシンプルな呼びかけが、見て見ぬ振りをしない勇気の大切さを認識させてくれます。漫画では画像にはなかった“表情”をつけてみました。

漫画部門・佳作

- 「勇気を出して」 東田涼太郎さん (長洲町立長洲小学校 2年)
- 「いじめはいけない」 さっちゃんさん (宇土市立宇土東小学校 3年)
- 「みんな同じ なかま」 宮原凜さん (錦町立西小学校 4年)
- 「人と人とのつながり・助け合い」 中川夏帆さん (菊池市立七城小学校 5年)
- 「だれにでも、いいところはあるんだよ！」 古川莉帆さん (菊池市立七城小学校 5年)
- 「みんなで ANK」 田中夢来さん (長洲町立六栄小学校 5年)
- 「心の救い方」 小形梨奈さん (益城町立広安小学校 6年)
- 「いじめは絶対起こさない！」 米崎颯来さん (長洲町立六栄小学校 6年)
- 「生きる意味とは？」 脇崎怜音さん (多良木町立多良木中学校 1年)
- 「みんなでつながる心のピース」 本多明日香さん (菊陽町立菊陽中学校 2年)
- 「私も勇者になりたい。」 中林楓乃さん (天草市立五和中学校 3年)
- 「やさしい心で愛をもって」 佐藤直輝さん (阿蘇市立一の宮中学校 3年)
- 「個性を活かすチームワーク」 谷口慎一さん
- 「キャッチボールは楽しいね！」 渡瀬進さん
- 「男女平等ではないの？」 北原由美子さん



シナリオ部門・入選

- 「いろんな仕事。」 チーム一年魂 (熊本県立荒尾支援学校高等部 1年 一般学級 4班)

まとめのことは

受賞作品については、全作品人権センターHPで公開しています。今回残念ながら掲載できなかった作品も見ることができますので、ぜひご覧ください♪

熊本県人権センター

検索

選考風景

さくらだ さちこ

桜田 幸子さん (4コマ漫画家、エッセイスト) ※左上写真

- ・4コマ漫画『おっぴいの達人』掲載 (『くまにち すばいす』)
- ・テレビタミン (KKT) 等、活躍中!



まずは、それぞれ真剣な表情で作品に目をおしていきます。



次は、審査員全員での話し合いです。議論は白熱し、候補をしぼるのも一苦労。



審査員も思わず笑顔になるような、心温まる作品ばかりでした。



立ち上がり身を乗り出しながら思う存分意見を出し合った後、入賞作品を決定して行きました。

「部落差別の解消の推進に関する法律」

(平成28年12月施行)

この法律は、現在もなお部落差別が存在することを明記し、部落差別のない社会を実現することを目的としています。

「熊本県部落差別事象の発生の防止及び調査の規制に関する条例」

(平成7年施行)

熊本県では、部落差別につながるような結婚や就職に際しての身元調査をしてはならないと条例で定めています。

人権に関する相談をお受けします

熊本県人権センターでは、相談員が面接や電話で人権に関する相談をお受けし、助言や情報提供を行っています。(相談は無料。プライバシーは守ります。)

下記の相談専用電話までご連絡ください。

相談専用電話 096-384-5822

相談時間 平日9:00～12:00/13:00～16:00

熊本県環境生活部県民生活局 人権同和政策課 (熊本県人権センター)

本情報誌へのご意見・ご感想をお寄せください

住所 〒862-8570 熊本市中心区水前寺6丁目18番1号
(県庁行政棟新館2階)

開館時間 8:30～17:15

休館日 土曜・日曜・祝日・年末年始

電話 096-333-2299 **096-333-2300(DVD・図書貸出専用)**

FAX 096-383-1206

メール jinken@pref.kumamoto.lg.jp

発行者：熊本県
所属：人権同和政策課
発行年度：平成29年度

この冊子は再生紙を使用しています。